

小学校における保健学習の実施に関する調査研究(第1報)：  
保健学習をより円滑に実践するための教師のニーズと、そのサポート体制の構築に向けて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤田, 信一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00010336">https://doi.org/10.14945/00010336</a>

## 小学校における保健学習の実施に関する調査研究（第1報）

— 保健学習をより円滑に実践するための教師のニーズと、そのサポート体制の構築に向けて —

A survey of health instruction on elementary school in shizuoka.

赤 田 信 一

Shinichi AKADA

（平成12年10月10日受理）

### 【はじめに】

青少年における喫煙・飲酒・薬物乱用の問題、心の健康や性の逸脱行動などの問題を受け、小学校段階からの保健学習に対する期待が高まっている。小学校における保健学習については、1) 昭和33年の学習指導要領の改訂時における教育課程への位置づけ、2) 平成元年度からの保健教科書の導入、3) 平成14年度からの小学校3・4年生への保健授業の導入、というような制度上の改定が進められており、これらの制度改革は、小学校における保健学習の実践を保障するものとなっている。

今後、小学校における保健学習をより充実したものにするためには、このような制度上の改定に加え、実際に授業を行う教師に対するサポート体制の確立が不可欠であろう。もし、保健の授業を行おうとする教師が、何らかの理由でその保健学習の実施にいわゆる「やりにくさ」を感じていたり、教材や教具、その他保健学習を進める上での様々な情報が教師の手に不足している状況があったりしたならば、円滑な保健学習の実施は困難となる。この様な、保健学習の実施に際する困難さは、保健学習の内容（質）や実践数（量）に直接的に影響を与え、このことが、「児童の健康課題に対応できない保健学習」、「教育的にも価値の低い保健学習」を生じさせる要因にも成り得る。何をもち「よい授業」、「成功した授業」とするのかといった授業の評価基準の設定は、教育的な観点を加味すればするほどその設定は難しくなる。しかしながら、授業を「良いもの」、「価値あるもの」に導くキーパーソンのひとり、その授業を行う教師であることは間違いのないであろう。児童にとって実践的な理解が可能となり、価値の高い保健学習の成立を目指している教師に対し、その実現に向けた「教師に対するサポート体制の確立」は極めて重要なことである。

そこで筆者は、「保健学習の実施に際する教師へのサポート体制の確立」を目指し、研究プロジェクトを組み作業を進めている。この研究作業の一環として、静岡県下小学校教師に対して、保健学習の実施に関する実態の調査と、ニーズ（保健学習を円滑に行うための要望）の調査を行った。本稿では研究プロジェクトの第一報として、その実態とニーズの調査結果を単純集計として報告するものである。

### 【調査方法・対象・内容】

2000年2月、静岡県下の小学校の5・6年生担当教員を対象として、調査表を郵送する方法で実施した。回答に際しては学校名および回答者名は無記名とした。調査対象者は、2000年全国学校名鑑を用い、1/5を系統抽出し、小学校107校に2部ずつ、5・6年生の学級担当者それぞれ1部の調査表がわたるようにした。なお、調査表に回答してもらう保健学習への取り組みの実態等は、当年度一年間のものとした。

調査時期は2000年2月中旬から3月中旬であった。期間途中、督促状を郵送し、最終的に回収できたのは87校であり、回収率は81%となった。

調査内容は、保健学習の取り組みの実態、保健学習の教材や教具ならびに研修などへのニーズ・要望、保健学習の自己評価などであった。

### 【結果】

#### 1. 回答者の属性 (表1～4)

性別についてみると、男性が69.6%、女性が30.4%であった。教職経験の年数は、0年～12年が34.5%、13年～25年が59.1%、26年以上が5.8%であった。学級の児童数は、20人以下が3.5%、20人以上30人以下が28.1%、31人以上が68.4%であった。担当学年は5・6学年でほぼ同数であった。

表1 性別

	n=171	(%)
1 男	119	69.6%
2 女	52	30.4%
3 答えられない	0	0.0%

表2 教職経験の年数

	n=171	(%)
1 0年～12年	59	34.5%
2 13年～25年	101	59.1%
3 26年以上	10	5.8%
4 答えられない	1	0.6%

表3 学級の児童数

	n=171	(%)
1 20人以下	6	3.5%
2 30人以下	48	28.1%
3 31人以上	117	68.4%
4 答えられない	0	0.0%

表4 担当学年

	n=171	(%)
1 5年生	84	49.1%
2 6年生	87	50.9%
3 答えられない	0	0.0%

#### 2. 保健学習の取り組み (表5～8)

保健学習の時間確保の方法については、ある時期に1週間に複数回の授業時間を設け集中的に行うケース（一定期間集中型）が39.8%と最も多く、続いて、雨天の日や体育の授業が出来なかった時などに不定期に行うケース（不定期実施型）が35.7%、続いて、ある時期に1週間に1回の授業時間を設け継続的に行うケース（一定期間継続型）が24.0%であった。学校施設などの諸事情によるものと予想されるが、いわゆる「雨降り保健」という実施ケースが少なからず存在することが明らかになった。

年度当初における1年間の保健学習の実施予定時間は、平均で9.4時間であった。一方、実際に保健学習を実施した時間数は、平均で8.4時間であった。小学校5・6年生の保健学習の実施率は89.4%となることが明らかになった。

「保健学習の時間確保」の内訳については、他の領域と同様に「保健」を位置付け明確に授業時間を確保したケースが78.9%と最も多く、続いて、理科や家庭科などで内容が類似した授

業を保健学習の時間としたケースが10.3%、続いて、保健指導（講演会含む）の時間を保健学習の時間としたケースが8.1%となった。多くの学級において保健学習の時間が明確に確保され実施させている様子が明らかになった。

表5 保健学習の時間をどのように取り、行いましたか。

	n=171	(%)
1 ある時期に、一週間に複数回の授業時間を設け集中的に行った（一定期間集中型）	68	39.8%
2 ある時期に、一週間に一回の授業時間を設け継続的に行った（一定期間継続型）	41	24.0%
3 雨の日や体育の授業が出来なかった時などに不定期に行った（不定期実施型）	61	35.7%
4 いわゆる保健学習としての特定の時間は取らなかった	0	0.0%
5 その他	1	0.6%

表6 年度始めにおいて計画された今年度1年間の保健学習の時間数

平均年間授業予定時間数	9.4時間
-------------	-------

表7 年度末までに実施された今年度の保健授業の時間数

平均年間授業実施時間数	8.4時間
-------------	-------

表8 「保健学習の時間確保」の内訳の平均

	(%)
A: 他の領域と同様に「保健」を位置付け明確に授業時間を確保した	78.9%
B: 保健指導（講演会含む）の時間を保健学習の時間とした	8.1%
C: 理科や家庭科などで内容が類似した授業を保健学習の時間とした	10.3%
D: その他	2.7%

### 3. ニーズ『教材・教具』（表9～13）

保健学習をやりやすくするために希望する教材や教具については、学習内容に対応したビデオテープなどの視聴覚教材（とても希望する79.5%、まあ希望する15.8%）や、学習内容に対応した簡便で使いやすい実験・実習器具（とても希望する56.7%、まあ希望する35.7%）が特に多かった。

教科書については、記述や構成に工夫が凝らされている教科書を希望するものが多い（とても希望する43.9%、まあ希望する29.8%）が、今のままでよいとするものも少なくなかった（25.1%）。

表9 学習内容に対応した掛け軸やペープサートなどの教材

	n=171	(%)
1 とても希望する	70	40.9%
2 まあ希望する	70	40.9%
3今のままでよい	22	12.9%
4 あまり希望しない	9	5.3%
5 全く希望しない	0	0.0%

表10 学習内容に対応したビデオテープなどの視聴覚教材

	n=171	(%)
1 とても希望する	136	79.5%
2 まあ希望する	27	15.8%
3今のままでよい	7	4.1%
4 あまり希望しない	1	0.6%
5 全く希望しない	0	0.0%

表11 簡便で使い勝手の良い実験・実習器具

	n=171	(%)
1 とても希望する	97	56.7%
2 まあ希望する	61	35.7%
3今のままでよい	12	7.0%
4 あまり希望しない	1	0.6%
5 全く希望しない	0	0.0%

表12 学習内容に対応したワークシートや文章教材

	n=171	(%)
1 とても希望する	64	37.4%
2 まあ希望する	64	37.4%
3今のままでよい	36	21.1%
4 あまり希望しない	6	3.5%
5 全く希望しない	1	0.6%

表13 記述や構成に工夫が凝らされている教科書

	n=171	(%)
1 とても希望する	75	43.9%
2 まあ希望する	51	29.8%
3 このままでよい	43	25.1%
4 あまり希望しない	1	0.6%
5 全く希望しない	1	0.6%

## 4. ニーズ『授業の準備・計画段階でのサポート』(表14~18)

授業の計画・準備段階におけるニーズについては、授業のために教材研究をする時間を希望する教諭が極めて多かった(とても希望する63.7%、まあ希望する25.7%)。また、展開例が文章と写真で紹介されている授業記録の資料に対するニーズも高かった(とても希望する35.7%、まあ希望する38.6%)。

保健授業に関して問題や悩みが生じたとき、相談すればすぐに解決の糸口を示してくれる学内の同僚の存在、また学外の専門家の存在についてはいずれも希望するものが多い(前者、とても希望する45.0%、まあ希望する27.5%、後者、とても希望する33.3%、まあ希望する46.8%)が、今のままでよいとするものも少なくなかった(前者26.9%、後者18.7%)。

表14 展開例が文章と写真で紹介されている授業記録の資料

	n=171	(%)
1 とても希望する	61	35.7%
2 まあ希望する	66	38.6%
3 このままでよい	29	17.0%
4 あまり希望しない	14	8.2%
5 全く希望しない	1	0.6%

表15 展開例がビデオの画像として紹介されている授業記録

	n=171	(%)
1 とても希望する	29	17.0%
2 まあ希望する	70	40.9%
3 このままでよい	31	18.1%
4 あまり希望しない	37	21.6%
5 全く希望しない	4	2.3%

表16 授業のための教材研究をする時間

	n=171	(%)
1 とても希望する	109	63.7%
2 まあ希望する	44	25.7%
3 このままでよい	18	10.5%
4 あまり希望しない	0	0.0%
5 全く希望しない	0	0.0%

表17 保健学習に関して問題や悩みが生じたとき、相談すればすぐに解決の糸口を示してくれる学内の同僚の存在

	n=171	(%)
1 とても希望する	77	45.0%
2 まあ希望する	47	27.5%
3 このままでよい	46	26.9%
4 あまり希望しない	1	0.6%
5 全く希望しない	0	0.0%

表18 保健学習に関して問題や悩みが生じたとき、相談すればすぐに解決の糸口を示してくれる学外の専門家の存在

	n=171	(%)
1 とても希望する	57	33.3%
2 まあ希望する	80	46.8%
3 このままでよい	32	18.7%
4 あまり希望しない	1	0.6%
5 全く希望しない	1	0.6%

## 5. ニーズ『実践への意欲を維持する外的環境』(表19~23)

保健学習を熱心に取り組んでいこうとする教員集団の雰囲気については、まあ希望するものが多い(47.4%)、続いて、今のままでよいとするもの(31.0%)、とても希望するもの(19.3%)の順であった。一方、児童の保健学習に対して「熱心な取り組み態度や学習意欲」を希望するものが高かった(とても希望する39.8%、まあ希望する30.4%、今のままでよい29.8%)。

保健学習が有意義なものであり、児童の健康の保持増進にとって価値があるという社会的な評価についても希望するものが多かった(とても希望する45.6%、まあ希望する41.5%)。また、「児童にとって価値のある有意義な学習をすることができた」と教師自身が実感できるような授業の体験」、同時に、「児童が興味を持ち楽しみながら保健の学習を進めていた」と教師自身が実感できるような授業の体験」をととても希望するものが多くみられた(前者52.6%、後者57.9%)。

表19 保健学習を熱心に取り組んでいこうとする教員集団の雰囲気

	n=171	(%)
1 とても希望する	33	19.3%
2 まあ希望する	81	47.4%
3今のままでよい	53	31.0%
4 あまり希望しない	0	0.0%
5 全く希望しない	4	2.3%

表20 児童の保健学習に対する熱心な取り組みの態度、学習意欲

	n=171	(%)
1 とても希望する	68	39.8%
2 まあ希望する	52	30.4%
3今のままでよい	51	29.8%
4 あまり希望しない	0	0.0%
5 全く希望しない	0	0.0%

表21 保健学習は有意義なものであり、児童の健康の保持増進にとってたいへん価値があるという社会的な評価

	n=171	(%)
1 とても希望する	78	45.6%
2 まあ希望する	71	41.5%
3今のままでよい	22	12.8%
4 あまり希望しない	0	0.0%
5 全く希望しない	0	0.0%

表22 「児童にとって価値のある、有意義な保健学習をすることが出来た」と先生自身が実感できるような授業の体験

	n=171	(%)
1 とても希望する	90	52.6%
2 まあ希望する	51	29.8%
3今のままでよい	28	16.4%
4 あまり希望しない	2	1.2%
5 全く希望しない	0	0.0%

表23 「児童が興味を持ち、楽しみながら保健の学習を進めていた」と先生自身が実感できるような授業の体験

	n=171	(%)
1 とても希望する	99	57.9%
2 まあ希望する	44	25.7%
3今のままでよい	27	15.8%
4 あまり希望しない	1	0.6%
5 全く希望しない	0	0.0%

## 6. ニーズ『研修』(表24~26)

研修について、保健の医学的な知識を学べる研修会は、とても希望するが22.8%、まあ希望するが56.1%となり、保健授業の指導法についての研修会は、とても希望するが18.7%、まあ希望するが59.1%であった。板書のテクニックが向上するような研修会は、とても希望するが11.7%、まあ希望するが42.7%であった。いずれも、「とても希望」「まあ希望」と回答するものの割合は他のものよりも高く、研修会に対する潜在的なニーズはかなり強く存在すると言えよう。

表24 参加すれば保健や健康問題についての医学的な知識や研究成果が学べるような研修会

	n=171	(%)
1 とても希望する	39	22.8%
2 まあ希望する	96	56.1%
3今のままでよい	29	17.0%
4 あまり希望しない	6	3.5%
5 全く希望しない	1	0.6%

表25 参加すれば保健学習に関しての指導法など実践的な教授能力を高められるような研修会

	n=171	(%)
1 とても希望する	32	18.7%
2 まあ希望する	101	59.1%
3今のままでよい	30	17.6%
4 あまり希望しない	7	4.1%
5 全く希望しない	1	0.6%

表26 参加すれば自分の板書のテクニックが向上するような研修会

	n=171 (%)	
1 とても希望する	20	11.7%
2 まあ希望する	73	42.7%
3今のままでよい	52	30.4%
4 あまり希望しない	20	11.7%
5 全く希望しない	6	3.5%

## 7. 保健学習に対する自己評価 (表27~31)

昨年の保健学習について、うまくいったかどうかの自己評価をたずねたところ、どちらともいえないものが多く(41.0%)、まあうまくいっていたものが33.9%、あまりうまくいかなかったものが24.6%であった。いつもうまくいっていたものは0.6%にすぎなかった。また、保健学習に意欲的に取り組んだかどうかについての自己評価では、まあ意欲的に取り組んだものが37.4%いる一方で、どちらともいえないものが32.2%、あまり意欲的に取り組まなかったものも28.6%あった。

保健学習の負担については、あまり負担に感じなかったものが45.0%いる一方で、少し負担と感じたものも21.6%あった。保健学習を体育の授業と比較した場合の指導のしやすさについては、体育のほうが指導しやすいとしたものが59.1%であり、同じ程度が33.9%、保健のほうが指導しやすいとしたものは4.7%にすぎなかった。

小学校の保健学習が、児童の現在または将来の生活に役立つかどうかについては、肯定的に考えるものがほとんどであった(とても役立つと思う40.4%、まあ役立つと思う55.6%)。

表27 本年度の自分の保健学習がうまくいっていたと思いますか。自己評価としてお答えください。

	n=171 (%)	
1 いつもうまくいっていた	1	0.6%
2 まあうまくいっていた	58	33.9%
3 どちらともいえない	70	41.0%
4 あまりうまくいかなかった	42	24.6%
5 全くうまくいかなかった	0	0.0%
6 答えられない	0	0.0%

表28 意欲的に保健学習の実践に取り組みましたか。自己評価としてお答えください。

	n=171 (%)	
1 とても意欲的に取り組んだ	3	1.8%
2 まあ意欲的に取り組んだ	64	37.4%
3 どちらともいえない	55	32.2%
4 あまり意欲的には取り組まなかった	49	28.6%
5 全く意欲的には取り組まなかった	0	0.0%
6 答えられない	0	0.0%

表29 本年度、保健学習を担当していて負担を感じましたか。

	n=171 (%)	
1 とても負担と感じた	0	0.0%
2 少し負担と感じた	37	21.6%
3 どちらともいえない	34	19.9%
4 あまり負担とは感じなかった	77	45.0%
5 全く負担とは感じなかった	23	13.5%
6 答えられない	0	0.0%

表30 運動を主とするいわゆる体育の授業と、いわゆる保健の授業とを比較した場合、どちらが授業をしやすい、指導しやすいと感じましたか。

	n=171 (%)	
1 保健の授業の方が指導しやすいと感じた	8	4.7%
2 体育の授業の方が指導しやすいと感じた	101	59.1%
3 同じ程度だと感じた	58	33.9%
4 答えられない	4	2.3%

表31 小学校での保健学習が、児童の現在、将来の生活に役立つと思いますか。

	n=171	(%)
1 とても役立つと思う	69	40.4%
2 まあ役立つと思う	95	55.6%
3 どちらともいえない	6	3.5%
4 あまり役立つとは思わない	1	0.6%
5 全く役立つなと思う	0	0.0%
6 答えられない	0	0.0%

8. 保健学習の担当者について（表32）

保健学習の担当については、基本的に学級担任の教師が担当し、授業の内容によっては養護教諭が担当するのが適切とするものが84.2%と非常に多かった。基本的に養護教諭が担当し、授業の内容によっては学級担任が担当するのが適切とするものが5.8%、学級担任がすべて担当するのが適切とするものが4.7%であり、養護教諭がすべて担当するのが適切とするものは1.2%であった。

表32 保健学習は、どの教師が担当するのが適切であると考えますか。

	n=171	(%)
1 学級担任の教師がすべて担当するのが適切	8	4.7%
2 基本的に学級担任が担当し、授業の内容によっては養護教諭が担当するのが適切	144	84.2%
3 基本的に養護教諭が担当し、授業の内容によっては担任教師が担当するのが適切	10	5.8%
4 養護教諭がすべて担当するのが適切	2	1.2%
5 その他	6	3.5%
6 答えられない	1	0.6%

9. 研修会への参加とその評価（表33～35）

保健学習の研修会や講習会あるいは自主的研究サークル等への参加について、参加する機会がなかったものが非常に多かった(90.0%)。参加したものにその研修会が今後の実践に役立つものであったかどうかをたずねたところ、とてもそう思うとまあそう思うという肯定的な回答が73.3%あったが、あまりそう思わないとした回答も20.0%であった。

また、小学校で保健学習を実践するにあたり、大学時代の講義あるいは認定講習等での講義が役立ったかどうかについてたずねたところ、とてもそう思うとまあそう思うという肯定的な回答が10.5%という低値であり、逆に、あまりそう思わないと全くそう思わないという否定的な回答が59.6%と高値であった。

表33 本年度、公的機関が主催する保健学習に関しての研修会、また、自主的研究サークル等による研修会や講習会に参加しましたか。

	n=171	(%)
1 1回から3回程度参加した	15	8.8%
2 4回から6回程度参加した	0	0.0%
3 7回以上参加した	0	0.0%
4 参加する機会はなかった	154	90.0%
5 答えられない	2	1.2%

表34 参加された研修会や講習会は、保健学習をするにあたり、ためになるもの、役立つものであったと思いますか。

	n=15	(%)
1 とてもそう思う	3	20.0%
2 まあそう思う	8	53.3%
3 どちらともいえない	1	6.7%
4 あまりそう思わない	3	20.0%
5 全くそう思わない	0	0.0%
6 答えられない	0	0.0%

表35 本年度、小学校で保健学習をするにあたり、大学生のときに受講された(認定講習等含む)保健に関する講義の内容は、役立ったと思いますか。

	n=171	(%)
1 とてもそう思う	4	2.3%
2 まあそう思う	14	8.2%
3 どちらともいえない	38	22.3%
4 あまりそう思わない	65	38.0%
5 全くそう思わない	37	21.6%
6 答えられない	13	7.6%

## 10. 学習内容別の「やりにくさ」(表36)

保健学習における学習内容を各学年6つずつに分け、それぞれの学習内容を授業で扱うときのいわゆる「やりにくさ」を、「とてもやりにくいと思う(5点)」から「全くそうは思わない(1点)」の5段階評価で回答を求めた。個々の回答者数と得点をかけて出てきた数値を累積し、それを全回答者数で割ったものを「やりにくさの値」とした。

5年生においてもっとも「やりにくさの値」が高値を示した学習内容は、『思春期における体の変化(性に関する内容を含む)』であった。6年生においては「やりにくさの値」が高値を示した学習内容は、『病気の起こり方と病原体がもとになって起こる病気の予防(エイズの内容を含む)』と『健康な生活(学校、家庭などの生活と健康との関わり)』であった。

表36 学習内容別の「やりにくさの値」

(5年生)	「やりにくさの値」
・体の発達(身長や体重の変化、その個人差など含む)	2.21
・思春期における体の変化(性に関する内容を含む)	3.55
・心の発達や心の健康(悩みやストレスの対処法など含む)	2.40
・日常生活におけるけがの防止	1.70
・交通事故の原因とその防止	1.71
・けがが起きてしまった時のその手当	1.92
(6年生)	「やりにくさの値」
・病気の起こり方と病原体がもとになって起こる病気の予防※	2.29
・生活行動がもとになって起こる病気の予防	1.88
・喫煙・飲酒・薬物乱用の防止	2.14
・健康な生活(運動、休養、食事と健康との関わり)	2.14
・健康な生活(水、空気、日光と健康との関わり)	2.12
・健康な生活(学校、家庭などの生活と健康との関わり)	2.28

※エイズの内容含む

### 【まとめ】

本稿は単純集計のみの結果報告となったが、保健学習の円滑な実践に向けてのサポート体制を整えていく際の、いくつかの貴重なデータを得ることができたと思われる。

保健学習の取り組みであるが、その実施方法において、不定期実施型いわゆる「雨降り保健」としての保健学習の実施クラスが、35.7%にも及んだ。学習が全く行われぬより、「雨降り保健」でも実践されるだけ好ましいとする考え方もあるだろうが、不定期の実施では、学習の系統性を図ることも難しく、児童の学習への意欲にも悪影響を及ぼすことも予想される。また、平成14年度からの学習指導要領にもその実践が求められている課題解決的な学習や実験・実地調査などの実習を保健学習に取り入れる際には、ある程度明確な単元計画とその計画的な実践が不可欠であり、これからの保健学習をより充実させるためにも、計画された授業時間が確保されていくような学校経営・学級経営のサポート体制づくりが望まれる。

保健学習を実践しやすくするためのサポート体制としては、教材・教具に関しては、今以上に多くの「ビデオテープなどの視聴覚教材」と「使いやすい実験・実習器具」の開発と配布体制を整えることが必要であろう。

授業の準備・計画段階でのサポートに関しては、まず、教師が教材研究をする時間を今以上に長く持てるような学校経営の体制づくりが必要であろう。また、教材研究をするには不十分な時間しか確保できない今の現状においては、授業の展開例がわかりやすく紹介されている授業記録の資料が今以上に開発され配布されることが必要であろう。また、授業実践に関しての疑問などが生じた際に、気軽に質問できて解決の糸口を見つけられるような、人的ネットワークの構築も望まれる。

実践への意欲を維持する外的環境に関しては、同じ教員集団において保健学習への取り組みに対し積極的・肯定的な雰囲気や保たれていくような体制づくり、同時に、授業実践に対するある程度の共通見解や共通目標が共有できる体制づくりが必要であろう。また、保健学習に対する社会的な評価を今以上に高め、社会全体が保健学習に期待を寄せていくような体制づくりも必要であろう。また、教師自身が自らの実践の価値を自覚でき、自らの実践を肯定することができる感覚を数多く体験できるような体制づくりも望まれる。

研修会については、保健医学的な内容のもの、また、教授方法に関する内容のもの、いずれもそのニーズは高く、今以上に現職教員が参加しやすく価値の高い研修会を開催する体制づくりが望まれる。

保健学習と体育の授業との指導のしやすさを比較した場合、体育のほうが指導しやすいとするものが59.1%、保健のほうが指導しやすいとするものが4.7%であった。このアンバランスは授業時間の確保の問題や保健学習の指導方法において、マイナスの要因として働くことが予想に難くない。保健学習の実践・指導も「行いやすい」と教師が思えるような、サポート体制の整備の必要性がここでも明らかとなっている。

保健学習の担当者については、基本的に学級担任の教師が担当し授業の内容によっては養護教諭が担当するのが適切を回答するものが84.4%と非常に多かった。ここから、今後は養護教諭がどのような内容に対しどのような形で保健学習に関わっていくことが有効かということ踏まえた、サポート体制づくりが望まれる。

研修会への実際の参加者は、8.8%と低値にとどまったが、参加者の研修会に対する評価（授業に役立つものかどうか）は比較的高く、このことから研修会には一定の価値があるといえ、今後は、研修会に参加していない教員に対しての、研修会に参加しやすくなる（参加しなくなる）サポート体制づくりが望まれる。また、大学等における教員養成段階での教育内容について、小学校の教育現場ではあまり役に立たないとする否定的な回答が多かった。教員養成段階

での教育内容の改善も大きな課題である。

学習内容別の「やりにくさ」の感覚は、5年生においては、『思春期における体の変化（性に関する内容を含む）』が、6年生においては、『病気の起こり方と病原体がもとになって起こる病気の予防（エイズの内容含む）』と『健康な生活（学校、家庭などの生活と健康との関わり）』が高値を示した。これらの学習内容を円滑に指導できるように、これらの学習内容の実践を対象とした集中的なサポート体制の整備が望まれる。

なお、本研究の一部は文部省；科学研究費（奨励研究A）の助成による。

## 謝辞

本調査実施にあたり快くご理解とご協力をいただいた静岡県教育委員会体育保健課指導主事様、静岡県下市町村教育委員会様、また学年末のお忙しい時期にも関わらずアンケートにご回答くださった各学校の先生方に、心より厚く御礼申し上げます。今後は、先生方のお示しになった保健学習をより円滑に実践するためのニーズを、広く関係各位に伝え、関係者の総意によって、より良いサポート体制が構築されるよう努めて参ります。

## 参考文献

- ・ 大津一義，大沢清二他 中学校・高等学校における保健授業に関する調査 学校保健研究 1979；21（11）：502-512
- ・ 上野純子，大津一義他 教師（中・高）を対象にした保健授業の実態に関する調査研究 学校保健研究 1980；22（10）：458-468
- ・ 渡辺 功 中学校における保健授業の実態調査に関する研究 学校保健研究 1982；24（5）：234-241
- ・ 藤江善一郎，堀内久美子他 小学校における保健学習・指導の調査研究 学校保健研究 1984；26（8）：374-383
- ・ 小沢治夫，渡辺功他 都内高等学校における保健科教育の実態調査 学校保健研究 1991；33（12）：581-587
- ・ 門田新一郎 中学校保健体育教師を対象とした養護教諭の保健授業担当に関する調査研究 日本公衆衛生雑誌 2000；47（6）：530-537